

御船があーっぱ祭り写真コンテスト

グランプリに「恐竜ねぶた」



上／最優秀賞の推薦に選ばれ御船があーっぱ祭り振興会の山本孝二会長から表彰を受ける富田さん（中）。コンテストでは唯一御船町から受賞した実力者。

右／グランプリを獲得した富田さんの作品「恐竜ねぶた出現」。8月23日開催の地蔵祭りでお披露目された恐竜ねぶたを一瞬で切り取った力作の1枚。

下／9月8日に行われた写真コンテスト審査。総数131点を見て回る、右から熊日フォト・サークルの小崎宇一副会長、熊日御船支局の穀本純二支局長。



御船があーっぱ祭り写真コンテスト表彰式は9月23日、カルチャーセンターで開かれ、最優秀賞の推薦に選ばれた富田吉紀さん（辺田見）に表彰状とトロフィーが贈られました。

今年で39回目を数える写真コンテストは応募32人総数131点が出品されました。対象写真は、があーっぱ祭り、精霊流し、地蔵祭り。審査は熊日フォト・サークル運営委員の小崎宇一副会長が務め、趣旨、構図、色彩などを総合評価して、推薦1点、特選4点、準特選4点、入選10点を選びました。

富田さんは写真歴約40年のベテランで、町文化協会写真友会や全日本写真連盟などに所属しています。スナップや風景写真が専門。熊日フォトサークルでは、平成21年度年間優秀賞や平成22年度秋の撮影会で推薦を獲得するなど、熊本県を代表する敏腕カメラマンです。

「受賞はとてもうれしい。写真にはドラマがあり、恐竜ねぶたは偶然とらえた一期一会。御船の日常風景を記録として残していきたい」と御船をこよなく愛する富田さん。ファインダーを通して見える古里の魅力。未来へと伝え、残したい風景が、この町に数多く残っています。

編集後記

▼気づけば10月半ば、残暑が厳しく、いつの間にか秋の到来を感じている今日この頃。過ごしやすい季節、皆さんは秋をどう過ごされますか？▼取材でお会いしたAさん「物のない時代に育ち、遊びや生きるための生活の知恵を自らの体で体験し、身につけてきたこと。孫の世代へ少しでも伝えたい」と何気なく話されたその言葉が印象深く残っています。便利で物があふれている現代、何か忘れかけているものがあるそとです。◎

▼草スキー、釣りやキャンプで「吉無田高原」をよく訪れた少年時代。大自然の開放感がたまらなく好きで、御船町で一番大好きな場所でした。しかし年を重ねるにつれ、足は遠のいていったように感じます▼広報を担当して4年、再び「吉無田高原」へ足を運ぶようになりました。訪れる時季や時間帯で全く違う情景が目前に広がります▼御船町には1万8千人が暮らしています。「吉無田高原」をもっと利用して、宣伝すれば、きっと九州一の名所となるはず。さあ、秋の行楽シーズン到来です。弁当を片手に、今年は近場へ出掛けてみてはいかがでしょう。広報マンのお勧めは、三角山からの夕日が一押しです。◎

